

# 特集

# ありがとう、我が学び舎

令和8年3月末、市内の小学校1校、中学校4校がその歴史に幕を下ろしました。  
 児童・生徒は地域での学びや思い出を胸に、新たな環境へ歩みを進めます。



閉校式で校歌を歌う来内小学校の児童ら



学習発表会で地域の皆さんと撮影した集合写真



過去の来内小学校へタイムスリップする劇を発表



閉校プロジェクトで校歌の歌詞に登場する明神岳への登山



ローマ字でRAI'NAIポーズ



卒業生に思い出をインタビュー



会場に輪を作って踊ったナニヤドヤラ

自然を学びに生かす谷間の学校

## 来内小学校

全校児童5人。来内<sup>ファイブ</sup>が地域と駆け抜けた、来内小学校最後の1年

### 72年の歩み

来内小学校は、昭和28年に創立。510人が谷間の学校を巣立っていきました。住民も参加する地区民運動会やナニヤドヤラの伝承活動など、地域と一体となった活動が展開されてきました。最後の1年は閉校プロジェクトとして、運動会で100個の風船を空へ。学習発表会では地域住民の話を基に、同校の歴史を巡る劇を発表しました。

### 育まれた来内っ子の精神

閉校式は3月19日に開かれ、約150人が出席。竹林直美校長が「たくましく、

思いやりのある、自分で考えやりぬく来内っ子の精神は生き続けていきます」とあいさつしました。

同日の思い出を語る会では、老人クラブや婦人会など共に活動してきた団体や個人へ感謝状を贈呈。参加者から、豪雪やスキーを楽しんだ思い出が語られました。終盤には住民と共に、ナニヤドヤラで会場に大きな輪を作りました。



校旗を返納する竹林校長



児童代表・6年生 大上 武寿さん

地区民運動会で100個の風船を空に飛ばしたことが思い出です。来内小学校は児童や先生、みんなが仲の良い学校でした。閉校は寂しいです。三代交流や各行事を通して地域の人と活動する事で、人と関わる力、話す力が大きく成長できました。



閉校記念事業 実行委員長 上平 千尋さん

子どもたちのやりたいことを全部やろうと、1年かけて閉校プロジェクトに取り組み、子どもたちを応援しながら大人たちも元気ももらってきました。来内はこれからも地域と交流できる場所であり続けます。いつでも故郷に帰ってきてほしいです。